

TSSTご受験において、力を発揮していただくためにどうぞ一読ください。

TSSTとは？

開講前にTSSTを受験された際、すでにご覧になっていらっしゃる方も多いかと存じますが、以下のウェブページに、テストの詳細が記載されています。

<http://tsst.alc.co.jp/tsst/tsst.html>

回答時間45秒の問題が10問出題されます。

TSSTでは、以下の4つの評価基準を基に、総合的にレベルを判定しています。

* <http://tsst.alc.co.jp/tsst/report.html> の「評価方法」の項目に同じ内容が記載されていますが、もう少し具体的に解説すると、以下の通りとなります。

- (1) 言語機能
→与えられた質問に対し、求められている機能（現在・未来・過去における物事や出来事の描写など）に即した的確な回答ができているか、など。
- (2) 内容・場面
→話すことのできる話題の豊富さ、など。
- (3) テキストタイプ
→単文・重文・複文といった文の構造、論理的な段落・文章構成など。
- (4) 正確さ・流暢さ
→文法・語法的なミスの量と質（聞き手の理解度を妨げるかどうか）など。

つまり、以上のTSSTの概要をまとめると、回答のポイントは「問題の回答として適切な言語機能を用いて、どれだけ高い質の文（文章）をどれだけの量発話できたか」であることがわかります。

また、以下のウェブページにもポイントが記載されています。

<http://tsst.alc.co.jp/tsst/points.html>

これらを念頭に置き、上述の4つの観点について、もう少し詳しく解説します。

（１）言語機能

中学校や高校では、学年が上がるほど、学習した内容のレベルも上がっていたかと思います。たとえば、中学校1年生で現在形をある程度マスターした後、2年生から3年生にかけ、未来形・過去形・現在完了形が導入されます。同じように、難しい文法が使えれば、それだけ高いレベルの会話ができ、TSSTのレベルも上がるわけです。

また、「言語機能（叙述・描写、質疑、依頼など、言葉によってできること）」も同様で、例えば、目の前にある物の色や形状を述べるだけの簡単な機能もあれば、レポートを読んで口頭で要約するような難しい機能もあります。

当然、難しい機能を使えれば、TSSTのレベルは上がりやすくなります。この力を上げるには、英語の基礎力の強化が必要になります。

基礎力強化には、自己学習教材で学習した文法や日常英会話レッスン教材で学習した文型を、日記の中で使ってみたり、オンライン英会話のフリートークレッスンで使ってみたりしながら、実際に使えるようになるまで練習するなど、日々の努力が重要になります。

（２）内容・場面

様々な言語機能を使えるということは、様々な話題について話することができる、ということにも通じます。先ほどご紹介したウェブページの「ポイント2」にもあるように、話題によっては45秒間話し続けるのは大変ですが、話を膨らませることができれば話が続きます。あまりにも話題からずれてしまうのも問題ですが、その話題に関連する内容であれば、どんどん話を膨らませましょう。

「ポイント2」の1つ目の例では、「家族の行事」についての話題ですが、今一人暮らししている場合などは、「普段（現在、日常的に）」家族で何かを行うことがないかもしれません。その場合は、例えば、「過去」に家族とよく行っていた「場所の描写」や、その場所で特に思い出に残っている「出来事の叙述」といったことができる（＝より高い言語機能が使える）のであれば、45秒間はあっという間に過ぎてしまうことでしょう。この力を伸ばすには、英語学習での言語機能の習得はさることながら、日本語の会話においても、普段から話を膨らませる練習をしておくといよいでしょう。

また、毎日時間を決めて（例えば「5分以内」で）、日々思っていることを日記にまとめてみるのも効果的です。テレビのコメンテーターのように、与えられた時間内に適切なコメントができるように、練習してみてください。それが英語でできるようになれば完璧です！

（３）テキストタイプ

中学校で習った文法事項を例にとると、接続詞の and や but で2つの文を1つにつなげると、より長い文を作ることができます。また、because やwhenなどを使えば、理由や時間にかかわる情報を付け加えることができます。構造が単純で短い文を接続詞を使って文をより長くすると、当然、より複雑な文が完成します。

And や but などをつなげた文を「重文」、because や when などをつなげた文を「複文」と言います。前者は単に文と文をつなげるだけなので、普段単文だけで話してしまいがちな方（TSSTレベル3・4前後の方）でも、簡単に作ることができます。後者は、「出来事」とそれが起こった「理由」、「原因」と「結果」など、よりロジカルな考え方を表すものですので、より高度な英語表現と言えます。

TSST レベル4の方は、because やwhen などを使った簡単な「複文」を作れるよう、練習しましょう。

また、TSSTレベル5で伸び悩んでいる方は、becauseや when などの簡単な接続詞だけでなく、if や whether など、より使うのが難しい接続詞を使った「複文」を作る練習を重ねることで、よりレベル6に近づくことができます。

レベル6の方は、論理的な「段落」構成を意識して作文する練習をしましょう。結論を先に言ってから詳細の説明をするなど、日本語とは逆の構成にするだけでも、より英語での論理的な発話に近づきます。

また、発話の量も大事です。たくさん話せば話すほど、より詳細な説明ができます。途中で黙ってしまうとTSSTのレベルを下げてしまいますので、45秒間「しゃべり倒す」ぐらいの勢いで話しましょう。

（４）正確さ・流暢さ

当然ながら、より正確に、より流暢に話すことができれば、聞き手の理解を阻害することはありません。例えば、細かな文法のミス（例えば、三単現の s の付け忘れ）は、ネイティブスピーカーにもよくあることで、相手の理解を妨げるほどのミスではありません。（もちろん、常に間違えずに話すことができれば、それに越したことはありません。）このような細かなミスがたまに起こる程度であれば、TSSTではそれほどスコアに響きません。

一方、時制の誤りなど大きな文法のミスや、意味がうまく伝わらないほど日本語なまりの強い発音などは、相手の理解を妨げるので、レベルを押し下げる要因となります。日ごろから英作文や発音の練習をし、オンライン英会話レッスンでミスを直してもらい、何度も声に出して復習するなどして、より正確かつ流暢な発話ができるように努力しましょう。

その他にも、以下のウェブページには、現在のTSSTのスコア別に、次のレベルを取得する方法が掲載されています。

<http://tsst.alc.co.jp/tsst/levelup.html>

また、開講前にお配りした学習ガイドも参考にしながら、学習を進めてみてください。

以上、ご不明の点などがございましたら、ぜひお問い合わせください。

講師・教務スタッフ一同、引き続き全力でサポートさせていただきますので、よろしくお願いいたします。